

した。シバラーに対して染色体上の同坐性を示す mld でも、シバラーと同様なミエリン塩基性蛋白質(MBP)の発現障害がある。シバラーでは MBP 欠損があるのに対して、mld では部分的な発現を示した。分子生物学的解析によりシバラーでは、MBP 遺伝子の 3～7 のエキソン・イントロンが欠失しているのに対して、mld では、遺伝子が tandem に重複しており、そのうち一つは 3～7 のエキソン・イントロンが逆向きに配列していた。jumpy 突然変異ではミエリン PLP(プロテオリピド蛋白質)遺伝子の第 5 エキシソンの splicing 障害を示した。

3. 実験動物における発生工学の進歩

豊田 裕 (東京大学医科学研究所)

哺乳類の初期胚を実験的に操作し、発生過程を改変して、その仕組みを明らかにするとともに、有用動物の作出を目指す研究は、発生工学と呼ばれ、急速な発展が期待されている。とくに、実験動物学の分野では、疾患モデル動物作出のための新しい手法としての期待が大きい。これらの研究には、まず、多数の良質な初期胚を得るための技術および初期胚を発生させるための培養系を確立することが必要である。現在、マウスでは、ほぼ満足できる手法が確立されているが、その難易には系統差がある。他の動物では、初期胚の培養自体が困難である。ここでは、これらの発生工学を支える基礎技術について概観し、さらに、胚の分割、キメラ、核移植、遺伝子導入など、発生工学研究の実験動物科学における役割について展望する。

昭和62年度役員会報告

昭和61年度には、下記の2回の役員会が持たれた。

第1回役員会

昭和62年9月5日(土)午後13:00～13:30まで、岡山大学薬学部学部長室において開催された。議題ならびに討議内容は下記の通りである。

①昭和61年度の会計監査について……昭和61年度(昭和61年1月1日～昭和62年3月31日)の会計報告の監査が昭和62年7月28日中江利孝、高橋

正侑両監事によってなされ、御承認を得た。

②研究会々員の動向について……昭和61年9月の99名から、昭和62年7月では112名となり、8月に3名、9月5日(第14回研究会当日)に3名の入会があり、計118名になった。また県内会員数が約60%の割合を占めることが報告された。

③次期(第15回)研究会の開催について……本研究会は昭和57年12月7日(土)に発足して、5年目を迎えることから、次期研究会は5周年記念にふさわしい内容を企画してみてもどうかという意見が提案され、その方向で検討することが了承された。

④第6号の発行について……昭和63年4月に発行を予定しているので、会員の皆様から原稿を募集していることが出された。

第2回役員会

昭和62年12月5日(土)午後13:00～13:30まで、岡山郵便貯金会館錦の間において開催された。議題ならびに討議内容は以下の通りである。

①第15回研究会の取り組みと経過について……第15回研究会は創立5周年記念にふさわしい内容とするため、常務理事が中心になって企画し、会長の御承認を得て、本日(12月5日)の運びになったことが報告された。

②次期(第16回)研究会の開催について……第16回研究会の開催場所について三谷恵一先生(岡山大・文学部)にお願いしたところ、心よく引き受けていただいた。

③研究会々員の動向について……会員数は、現在、124名になったことが報告された。

④第6号研究会報の発行について……来年4月に発行を予定しているが、本日の特別講演の要旨を、講演者をお願いして、できれば3題とも会報に掲載したい旨報告があった。

岡山実験動物研究会の5年間の活動

佐藤 勝紀 (岡山大学・農学部)

岡山実験動物研究会が発足して、早いもので5年目を迎えました。この間、会員ならびに会員外の方々から、多大のご理解とご支援を頂き、本研